

有用な コンプリケーション

文
ピエール・マイヤール
写真
レオン・チュー

1996年、パテック フィリップは革新的なコンプリケーション、年次カレンダーを発表し、絶賛を博した。この巧妙な機構は、単なる時計製作上の実験ではなかった。それはマニュファクチュールによる、顧客と時計業界全体の要望への思慮深い回答だったのである。

1996年のバーゼル・フェア会場では、興奮したざわめきを感じられた。パテック フィリップは入場者の誰も予想できなかった腕時計を発表した。5035モデルは、年に1回のみ日付調整を必要とする画期的なコンプリケーション、年次カレンダーを搭載していた。発表に立ち合った幸運な少数の人々は、全く新しい時計製作のコンセプト、「有用なコンプリケーション」の始まりを目の当たりにしたのであった。

同じ時期、クォーツ危機の影響から回復しつつあったスイスの時計産業界は、機械式時計のリバイバルの真っ只中にあった。1989年、パテック フィリップは創業150周年を記念し、歴史的なキャリバー89を発表した。このモデルは、発表当時、世界で最も複雑なタイムピースであり（25年以上その地位を維持した）、1728個の構成部品が33の複雑機能を駆動していた。当時、現行コレクションとして、かなりの数のコンプリケートッド・ウォッチを提供していたのは、パテック フィリップのみであった。しかし他のメーカーも追いつきつつあった。キャリバー89の発表に続き、他のブランドもグランド・コンプリケーション・モデルの生産量を増やしていた。このプレステージ溢れる高価な

【前ページ】
直径37mmの5035モデル
（写真はイエローゴールド仕様、
46ページ左上段も参照）は
1996年に発表された。
キャリバー315 S QAの年次
カレンダー機構は、同年に
パテック フィリップが特許を
取得した。この「有用な
コンプリケーション」は、年に
1回、2月の終わりにのみ日付を
調整すればよい。



トノ型ケース



2004年、ラウンド型でないケースを備えた最初の年次カレンダー5135モデル(上段左)が登場した。キャリバー324 S QA LU 24Hを採用したこのモデルは、弧状の日付表示窓を持つ最初のモデルであった。2007年には、年次カレンダーとミニット・リピーターを組み合わせた点で珍しい、より大きな5033Pモデル(同右)が続いた。

婦人用モデル



1996年のバーゼル・フェアに参加した人々は、今日でもなお驚異的な時計製作のコンセプトの始まりを目の当たりにした。



2005年、4936Pモデル(2段目左)は、婦人用モデルとして初めて年次カレンダー機構を搭載した。ベゼルには156個のトップヴェッセルトン・ダイヤモンドがセッティングされ、文字盤とサブダイヤルはマザーオブパール製。ゴールド植字、ローマ数字とゴールド・リーフ型時・分針が時刻を表示する。4936モデルに続き、4937モデルや、4947モデル、4948モデル、4946モデルが登場した。多くの後続モデルがマザーオブパールの文字盤とサブダイヤル、

およびダイヤモンド付きケースを備えていた。曜日、月、ムーンフェイスはサブダイヤルに表示され、日付表示窓は6時位置にある。4947/1Aモデルは最初のステンレススチール・ブレスレットモデルで、ダイヤモンドをセッティングせず、文字盤にはシャントンの真意を模した「山東絹」仕上げが施されている。このスタイルは4946Rモデル(下段中央右)と4946Cモデルのブルーグレー文字盤にも採用された(下段右および51ページ)。

最初の年次カレンダー



1996年、革新的な5035モデル(左中段)はスイスの雑誌「モントル・パッション」の「ウォッチ・オブ・ザ・イヤー賞」を受賞した。このモデルには、キャリバー315 S QAが搭載されている。パテックフィリップの最初の「有用なコンプリケーション」への進出は、年次カレンダー機構を搭載した時計コレクションの絶え間ない発展への道を開いた。1998年のバーゼル・フェアでは、このモデルのために創作された、ゴールド「ドロブレット」ブレスレットを装着した5036Pモデル(左中段)が、イエロー、ホワイト、ローズゴールド仕様で発表された。この直径37mmの時計は年次カレンダー機能に加え、ムーンフェイスとパワーリザーブ表示が搭載されており、これらがキャリバー315 S IRM QA LUにより駆動されている。

最初のメタル・ブレスレット・バージョン



6時位置にダイヤモンドをセッティングしたプラチナ・モデル



時計製作のカテゴリの市場が飽和状態となり、限られたコレクターや富裕な愛好家たちを圧倒する可能性を感じた当時のパテックフィリップ社長フィリップ・スターンは、軌道修正を決定した。彼の決断には、戦略的、経済的、そして時計製作上の理由があった。「当社の中心的な顧客層は忠実だが、高齢化しています。顧客層を拡大したいのであれば、よりアクセスしやすい選択肢、より使いやすいスポーティーな時計を提供する必要があります。私たちは革新を起さなければなりません」と彼は述べた。

しかしパテックフィリップは慎重に行動しなければならなかった。1990年代初め、アクセサリー時計の市場は衰退していた。1976年のノーチラスのような時計でさえ、もはや同じ魅力を持っていなかった。新しい時計だけでは、同社への情熱と関心を再燃させるには十分ではなかった。「私たちは自分自身を再発明しなければならぬ」とフィリップ・スターンは主張した。それは、あらゆる意味での再発明を意味していた。

パートナーシップ記念モデル



(上段右) 5056Pモデルは、6時位置のラグの間にダイヤモンドがセッティングされたパテックフィリップ初のプラチナ・モデルである。ティエリー・スターンが、日付表示窓、曜日と月表示サブダイヤル、ムーンフェイス、パワーリザーブ表示を備えたアントラサイト・カラーの文字盤を提案した。(下段左) 2001年、パテックフィリップは、ティファニー社との提携150周年を記念してリミテッド・エディションの5150Jモデルを制作した。12時位置に「T」の文字を配し、曜日、月、日付がすべて窓表示されている。(下段右) ドイツの時計宝飾店ヴェンベの創立125周年と、同店との長年の取引関係を記念し、パテックフィリップはリミテッド・エディション5125Pモデルを制作した。

フィリップ・スターンの戦略的なアプローチは、グランド・コンプリケーション・ウォッチを放棄することなく、新しい市場に進出することであった。フィリップ・スターンと彼のチームが考えていた有用なコンプリケーションは、時刻表示のみの時計とグランド・コンプリケーション・ウォッチの間に位置するものであった。1990年代、これらの有用なコンプリケーションの価格は、古典的な時刻表示のみのカラトラバ(1万2000スイスフラン、約90万円)と、同年代の永久カレンダー時計(4万7000スイスフラン、約414万円)の間のスペースを埋めることになるはずであった。

年次カレンダー機構は見事なコンセプトで、価格が1万7800スイスフラン、約157万円)が発表された1996年、同社は圧倒的な新しい製造拠点を開設した。巨額の投資により、当時ジュネーブとその周辺に散在していた工房のすべてをプラン・レ・ワットのひとつの屋根の下に統合した。そのわずか3年後の1999年、同社は最初の婦人用腕時計のコレクションであるTwenty4を発表した。フィリップ・スターンは、会社を再発明するという約束を守った。そしてこれらすべてが、パテックフィリップの新しい有用なコンプリケーションの基礎を築いたのである。

出典: Patek Philippe 時計博物館のウェブサイト



2026年、パテック フィリップのコレクションには年次カレンダー機構が引き続き搭載されている。ローズゴールド仕様の5396Rモデル(下)は曜日、日付、月表示窓、およびムーンフェイス表示サブダイヤルを配したサンドベージュ文字盤を備えている。ホワイトゴールドの4946Cモデル(上)には、「山東絹」仕上げのブルーグレー文字盤に曜日、月、ムーンフェイス表示サブダイヤルを配している。またデニム柄ブルーグレーカーフスキン・バンドを装着している。

ノーチラス年次カレンダー

2010年
5726Aモデル



年次カレンダー
40.5mm

2012年
57261Aモデル



年次カレンダー
40.5mm

2019年
57261Aモデル



年次カレンダー
40.5mm

年次カレンダー・レギュレーター・タイプ表示

2011年
5235Cモデル



年次カレンダー
レギュレーター・タイプ表示
40.5mm

2019年
5235Rモデル



年次カレンダー
レギュレーター・タイプ表示
40.5mm

パテック フィリップは、5726Aモデル(上段左)において初めて年次カレンダーの機能性とスポーティーなノーチラスの造形美を統合した。2012年にはスチール・オン・スチール・バージョンが登場し、2019年にはブルー文字盤バージョンが2つの前期モデルに置き換わった。5235Cモデル(上段右から2番目)は、レギュレーター・タイプの表示を年次カレンダーと組み合わせた最初のモデルである。

年次カレンダー・トラベルタイム

2004年
5326Cモデル



年次カレンダー
トラベルタイム
41mm

5326Cモデルは、キャリバー31-260 PS QA LU FUS 24Hを搭載し、トラベルタイムと年次カレンダー機構を組み合わせたモデルである。ケース側面にクルー・ド・パリ(ホブネイル)モチーフが彫金され、文字盤のテクスチャーはアンティークなカメラの外装を彷彿させる。

1996年に発表された5035モデルの文字盤は、永久カレンダー・モデルのそれと一目で違っていた。

アクアノート年次カレンダー

2003年
5261Rモデル



年次カレンダー
39.9mm

2023年、年次カレンダー機構がアクアノートコレクションに初めて登場した。5261Rモデルは、ブルーグレー文字盤に月と曜日表示サブダイヤル、および12時位置にムーンフェイス表示を備えている。このモデルには自動巻キャリバー26-330 S QA LUが搭載されている。

仕事です。」そのため年次カレンダー・コンプリケーションは、永久カレンダーの280個よりも多くの部品(24個)を必要とした。ジャンパー・スプリングは、年次カレンダー・コンプリケーションがより多くの部品を必要とする理由のよい例である。バラ氏が説明するように、「永久カレンダー・コンプリケーションでは、ジャンパー・スプリングはひとつの部品として製造され、複数の工程により機械加工されるため、製造が複雑になります。年次カレンダー・コンプリケーションでは、同じジャンパー・スプリングは、よりつくりやすい2つの平らな部品として製造されますが、この2つを結合する2本のピンが必要で、その結果永久カレンダーはひとつの部品を使用し、年次カレンダーは4つの部品を使用することになります。」

1996年末、最初の年次カレンダー腕時計である直径37ミリの5035モデルがスイスの雑誌「モントル・パッション」の「ウォッチ・オブ・ザ・イヤー賞」を受賞した。フィリップ・スターンは、当時技術的にきわめて革新的であった製品が業界で認められたことに「大変感動した」と述べた。このモデルは視覚的にも革新的であった。文字盤は、永久カレンダー・モデルのそれと一目で違っていた。日付表示はサブダイヤルではなく、6時位置の表示窓により直ちに判読できた。曜日、月、24時間は、3つの小さなサブダイヤルに表示された。

さらに、永久カレンダー・タイムピースとは対照的に、5035モデルはセンターセコンドを備え、数字と時・分針はホワイト夜光付であった。当時、このような時・分針はコンプリケーテッド・ウォッチでは希であったが、その効果はクリーンで控え目でエレガントであった。年次カレンダー・コンプリケーションは、並

外れた成功を収め、年が経つにつれ、多数のモデルとバージョンが賞賛を浴びつつ登場した。本稿のタイムラインが示すように、受賞に輝く5035モデルに続く年次カレンダー・モデルは、トラベルタイム、ムーンフェイス、ミニット・リピーター、パワーリザーブ表示などの追加機能で強化されている。年次カレンダー・コンプリケーションは既存のウォッチ・ファミリーにも登場した。2004年には月、曜日、日付表示窓の新しいレイアウトを備えたトノー型のゴンドロー・カレンダーリオ5135モデルに搭載された。また2006年発表のエレガントなカラトラバ5396Rモデルにも採用され、2007年にはミニット・リピーターと共にトノー型のグラインド・コンプリケーション腕時計5033モデルに搭載された。年次カレンダー機構は、2011年発表のレギュレーター・タイプの5235Gモデル、2012年にはノーチラス57261Aモデルにも搭載された。この有用なコンプリケーションは、小さな手首のためにデザインされた、エレガントなジュエリー・モデルとしてもデビューした。2005年に最初に発表された4936モデルは数回にわたりニューバージョンが登場し、この有用なコンプリケーションが女性の間で人気を博していることを証明した。

30歳を迎えた年次カレンダー機構は、豊かで冒険に満ちた青春を謳歌してきた。このコンプリケーションは数々の新しい顔を受け入れ、今後も多様なシーンで活躍する準備を整えている。2月の終わりに簡単な日付調整を行うことは、このモデルの無限に有用でエレガントな機能を、オーナーが再認識するためのよい機会となることだろう。

オーナー・エリアマガジン・エキストラにて、この記事の関連コンテンツを掲載しています。QRコードからぜひご覧ください。patek.com/owners

